

NETIS登録番号	技術名称	グリーンロック(ポーラス)			
QS-070008-A	副題	環境保全型連節ブロック			
分類1	河川海岸	多自然型護岸工	ブロック積(張)工	キーワード: 環境、景観	
分類2					
開発目標	周辺環境への影響抑制				
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術				
特許	<input type="checkbox"/> 有り (特許番号:) <input checked="" type="checkbox"/> なし				
技術賞, 審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明				
問合せ先	会社名	株式会社 ヤマウ		TEL	092-872-3351
	住所	福岡県福岡市早良区東入部5丁目15-7		E-MAIL	miyazaki@yamau.co.jp
	担当者	宮崎伸二			
実績件数	国土交通省	その他の公共機関		民間等	
H26.8.31現在	4件	54件		0件	

技術概要: (300字以内)

河川護岸におけるブロック張工において、従来の連節ブロック工に代わる環境及び景観に配慮した護岸用ブロックです。多自然川づくりを行う河川や湖沼等の緩勾配護岸に適用します。

「従来技術と比較して何を改善したのか」

- 従来は連節ブロックでは、施工後覆土し植物の繁茂を促す構造としていましたが、覆土はあまり厚い構造ではなく(20~30cm)又、植物の根は製品にて遮断されていたため、流水により土が流れた場合は植物も一緒に流れてしまうという状況でした。そこで、ブロック表面から地山まで連通する穴や隙間(連続空隙)を設けることにより、植物が繁茂するための土砂が表面から地山まで連続するようにしました。さらに製品をポーラス状にすることで製品内部にできる空隙部も土砂流失防止効果を持ちます。
- 従来は連節ブロック表面は幾何学的な凹凸があるだけで、施工後の景観は無機質なコンクリート肌と相まって非常に人工的な景観を創ってきました。しかし多自然河川を創っていく場合はその景観にも配慮するという目的の為に製品の表面を擬岩模様としました。
- 従来は連節ブロックは鉄線等を製品に通し連結しますが、この製品に鉄線を挿入する作業は現場において非常に作業がしにくいものでした。そこで新技術では隣り合うブロックとの連結には連結金具を使用するようにし、施工の簡略化を図りました。

「期待される効果」

- ブロック表面から地山まで連通する穴や隙間を設けているので、ブロック施工後土砂をその穴や擬岩模様廻りの隙間に充填すれば、植物の根はブロック下の地山にまで達し、水分や養分を十分に摂取できるため、植物の育成状況は非常に良好になるとともに、根が地山にしっかりと根付くことにより流水による土砂の流失防止にもなります。さらに製品をポーラスにした場合はコンクリート内部の空隙部にも植物の根が活着し、より表面土が流失しにくい構造となります。
- 擬岩模様を付けることで従来の連節ブロックが持つ幾何学的模様による人工的なイメージを少しでも和らげることが可能です。
- 連結には連結金具を使用するため、特別な技術や熟練を必要とせず誰でも簡単に接続作業をすることが可能であるとともに、連結作業は製品設置後ならいつでも行うことができるため効率的な施工を行うことが可能です。

「適用条件」

- 緩勾配護岸において、植物の育成空間を必要とするところ
従来品と同様に、所定のクレーンが搬入・作業ができるスペースがあるところ
90㎡程度以上の、製品を仮置きするスペースや設置作業を行う場所があるところ
- 技術提供可能地域
平成19年度時点では、九州全域及び山口県

「適用範囲」

勾配が1:1.5以上の緩い勾配。
1:1.5の場合は別途打合せが必要です。

「適用できない範囲」

法勾配が1:1.5より急な場合。

「写真・図等」

